**講演原稿タイトル（MSゴシック14PT）センター揃え**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| ご所属先　 　　  | 苗字 名前 | FIRST LASTNAME | Member |
| ご所属先 　　  | MS明朝　12PT | Times NEWROMAN  | Student-member |
| ご所属先 　  | 苗字　名前 | Fontsize 12PT | Non-member |

　和文要旨（MS明朝10PT）150字（３行）程度

キーワード（5個程度）

**１．見出しMSゴシック太字12PT**

これは、学術講演会・予稿集（要旨集）講演（「保全現場からの声セッション」）原稿のフォーマットです。講演者は必ず提出してください。言語は和文とします。

※要旨集（予稿集）に掲載された講演原稿の著作権は、全て日本保全学会に帰属するものとします。また、将来、保全アーカイブなど、ウェブ（インターネット）上への掲載を予定していますので、ご承知おきください。

なるべくWindows上で作成することを推奨。ヘッダー・フッターは使用しない、ページ番号を入れないこと。文章はMS明朝10PT。原稿の本文については、2段組みとし、左右の段の間に*8*mm程度の間隔を空けること。できる限り常用漢字を使用し、外字は出来る限り避けること。2ページ以内とする。

量フォントのサイズは10 pointとし、英数字用フォントには日本語フォント（MS明朝、MSゴシック等）を用いないこと。また、数式に現れる量記号が文章中に現れる場合には、数式に用いたものと同じフォントを用い\*1、字体についてもそろえること\*2。

\*1：数式エディタ(Microsoft数式エディタやMath Type)を用いている場合、本文の英数字用フォントに｢Times New Roman｣を設定しておくと、気にしなくて済む。

\*2：特に、英文中に数式の量記号が英文と同じ字体で現れると、量記号としての判別が難しくなる場合がある。数式には｢Computer Modern フォントファミリー(TimesやTimes New Romanもその例)｣を用いることを推奨する\*3。

\*3: Microsoft 数式エディタや Math Type では、デフォルトで Times New Roman に設定されている。

連絡先:名前、〒000-0000住所、所属先、

E-mail: …………@.....co.jp

\*この部分はテキストボックスです。1ページ目の左下に余白にはみ出さないように配置してください。

連絡先:名前、〒000-0000住所、所属先、

E-mail: …………@.....co.jp

\*この部分はテキストボックスです。1ページ目の左下に余白にはみ出さないように配置してください。

２．見出しの数字は一桁全角、二桁半角

2.1 節以下の見出しは11PT太字、英数は半角（MSゴシック）

なお、余白は下記のように設定すること。

上余白：29mm　下余白：22 mm

左余白：20 mm　右余白：20 mm

章・節・項の見出しには、ゴシック体の太文字を用い、章の見出しには12 point、節以下の見出しには11 pointの文字サイズを用いること。また、章・節・項の番号については、１桁数字には全角文字を、２桁以上の数字（2.1等のピリオドを挟む数字は2桁とみなす）には半角文字を使用し、下記の要領で付番すること。

2.2 図表、写真等の書き方

要旨集へはモノクロでの掲載となります。モノクロでもわかるように図の準備をお願いいたします。図表はなるべく、JPG、PNG、GIFで準備し、貼り付けの際に、不要部をWordの機能で隠すなどでなく、予めトリミングして貼り付けることを推奨する。ファイルサイズが大きくなる場合は、word内で図の圧縮を行う。

説明文番は、下記の要領に従うこと。

**図１ MSゴシック9PT太字 図下**

**表１ MSゴシック9PT太字 図上**

**参考文献**

[1] 糟谷高志、 内一哲哉、 “ECTに基づくシュラウドの検査シミュレーション”、 保全学、 Vol.3,№1、2004、 pp.51-56.